

広報みの

Public information paper of Mino

2025年
1月1日
No.1017



特集
2024
の
軌跡



☁️ 謹賀新年 ☁️

2025 謹賀新年

美濃市長あいさつ



美濃市長 武藤鉄弘

あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、穏やかで希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、市政の運営に格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、昭和29年に1町6村の合併により「美濃市」が誕生してから、70年という節目を迎え、市民の皆さまとお祝いすべく10月19日に市制施行70周年記念式典を開催しました。式典では、市政に貢献された方への表彰や、講師・神田京子氏による市の歴史を踏まえた講演の他、今年度に募集し認定された美濃市五感遺産を発表しました。式典の司会進行や受付業務は美濃・昭和中学校の生徒25名が担当し、市の将来を担う若者がつくり上げた記憶に残る素晴らしい式典となりました。

また、令和6年は戦国武将・金森長近公生誕500年、本美濃紙の手漉和紙技術ユネスコ無形文化遺産登録10周年、美濃和紙の里会館開館30周年、北海道士幌町姉妹都市提携30周年の年でもあり、多くの周年事業を実施しました。本美濃紙・ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念事業では、元離宮二条城（京都市）にて関係4市町村（美濃市、島根県浜田市、埼玉県小川町・東秩父村）および3保持団体（本美濃紙保存会、石州半紙技術者会、細川紙技術者協会）による紙漉き

実演を行い、国内外の観光客をはじめ、多くの方に日本の伝統文化である和紙の魅力を発信しました。

市内では、「清流の国ぎふ」文化祭2024の一環として「美濃市民文化祭」を開催し、いけばな展をはじめとしたさまざまな市民参加型のイベントが行われました。フィナーレでは、市民150名によるベートーヴェン交響曲第9番『歓喜の歌』大合唱が行われ、多くの観客に深い感動を与え、心に残るコンサートとなりました。

周年記念事業以外の主な出来事としては、4月に市役所内に武義高校生徒のみによる「未来創造課」を新設し、高校生が地域の課題を自ら考え、「防災」や「観光」に関する取り組みを行いました。今後も、地域の課題を自ら考え行動する若者の力に期待するとともに、温かく見守ってまいりたいと思います。

また、7月には秋篠宮妃紀子さまが美濃市を訪問されました。県立森林文化アカデミーでの美濃小学校児童との交流は大変素晴らしいものとなりました。うだつの上がる町並みでは多くの市民が沿道にてお迎えし、美濃和紙あかりアート館で、手漉き和紙の実演やあかりアート作品を興味深く鑑賞されました。市民の皆さまへの紀子さまのお気遣いには感銘を受けました。

このように、昨年は思い出深い一年

となりましたが、一方で、災害に見舞われた年でもありました。元日には、能登半島地震が発生し、多大な人的被害、建物被害、インフラ被害が発生しました。能登半島では9月にも線状降水帯による記録的な大雨により、河川の氾濫、土砂災害、冠水等による甚大な被害が発生し、いまだに復旧、復興のめどが立っていない状況です。市では、被災地に職員計20名を派遣し、避難所運営、罹災証明受付、住家被害調査等を行ってまいりました。被害に遭われた方々や避難を余儀なくされている方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに一刻も早い復旧、復興を願っております。

こうした自然災害は、美濃市でも発生する可能性があります。市民の皆さまにおかれましては、地域や家族の皆さまと共に防災意識の向上に努めていただきますようお願い申し上げます。

さて、今年の干支は「乙巳おとみ」です。成長や柔軟性、優しさを意味する「乙おと」と、再生と変化という意味のある「巳み」。この組み合わせから、努力を重ね、物事を安定させていく年になるといわれています。この一年が、市民の皆さまにとって素晴らしい年となるようご祈念、ご期待を申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

2025 謹賀新年

美濃市議会議長あいさつ



美濃市議会議長 山口育男

あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春を迎え、健康やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃から、市議会の運営ならびに議会活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、市制施行70周年、北海道士幌町姉妹都市提携30周年、本美濃紙の手漉和紙技術ユネスコ無形文化遺産登録10周年、美濃和紙の里会館開館30周年、戦国武将・金森長近公生誕500年という多くの周年記念の年でありました。各種関連イベントが開催され、ご参加あるいは携わっていただいた市民、関係者の皆さまには心より感謝を申し上げます。

一方、世界で起きているさまざまな紛争の影響や異常気象による物価高騰が、市民生活に大きな負担を与えており、先行きが見えない不安定な社会情勢が続いている現状であります。

国内でも地震、豪雨災害といった自然災害が多発しており、いつ本市で起きてもおかしくありません。日頃から災害に備える意識をより強く持つ必要があります。

当市においては、厳しい財政状況、人口減少、少子高齢化、公共施設やインフラ等の老朽化など問題が多様化する

中、市が直面するさまざまな課題解決のため、議会が担う役割はより重要になっていきます。市議会といたしましても、美濃市が将来にわたって魅力と活力に満ちた発展をしていくために、真摯に議論を行い、全力で取り組んでまいります。

さて、昨年は「市民と共に創るまち」を基本理念とし、将来都市像を「一人ひとりが挑戦 夢かなえるまち」とした「美濃市第6次総合計画」の4年目の年でした。

4月には、老朽化により改築を進めておりました美濃会館(隣保館)がオープンし、地域の一体感や絆を深める重要な役割を果たすことが期待されます。

5月にはツアー・オブ・ジャパン美濃ステージが開催され、300人を超えるボランティアのご協力のもと、2万2千人の観客が世界のロードレーサーの走りに歓声を上げました。

8月には横越地区において美濃市民花火大会が開催されました。美濃市では初の10号玉を含む約1100発の花火が打ち上げられ、会場は大変賑わいました。

今年には、「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されて10周年、「曾代用水」が世界かんがい施設遺産に登録されて10周年の記念すべき年になります。当市の素晴らしい資源を引き続き

国内外に発信してまいります。

10月には、「清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪」をテーマに第37回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねりんピック岐阜2025」が開催されます。美濃市においては、ウォークラリーが行われ、市外からも多くの参加者が見込まれることから、美濃市の魅力をより発信することが期待されます。

市議会では、毎年12月定例会を美濃和紙の日(11月27日)にちなみ「美濃和紙議会」と銘打って開催しています。会期中は、議場にあかりアート作品や和紙の花を展示し、議員は紙衣を羽織り、美濃和紙のアピールに努めています。

また、議会のインターネット配信や「みの市議会だより」の定期的な発行により、議会の活動を市民の皆さまにお知らせするなど、より身近で開かれた議会を目指した取り組みを進めてまいります。

今後も市民の皆さまの多様な意見に耳を傾け、市政に対して適切に反映できるよう、議員一人ひとりが研さんに励み、市議会がより市民に身近な存在となるよう活動してまいります。

今年も格別なご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

2024の軌跡 ～美濃市の1年を振り返る～



1月

- 消防出初式を開催
- 二十歳を祝う会を開催
- 美濃和紙の原料(こもぎ)を水に浸す「コウゾの寒ごらし」を実施
- 「能登半島地震」被災地に職員派遣(写真①)

2月

- 住民票などの証明書のコンビニ交付サービス開始

3月

- 地方創生SDGs官民連携優良事例として美濃市の取組が最優秀賞である「内閣府・地方創生推進事務局長賞」を受賞(写真②)

4月

- 美濃まつりを開催(北海道札幌町の訪問団が美濃まつりに参加)(写真③)
- 美濃会館リニューアルオープン(写真④)
- 美濃病院が参画する地域医療連携推進法人「美濃国地域医療リネージュ」設立(写真⑤)
- 武義高校の生徒のみで構成される「美濃市未来創造課」設立(写真⑥)

5月

- 「夢のある学校を考える会」市民説明会・意見交流会を開催
- ツアー・オブ・ジャパン2024美濃ステーションを開催

7月

秋篠宮皇嗣妃殿下が美濃市訪問

8月

美濃市民花火大会を開催

「みのしSDGsすごろく」完成(写真⑦)

10月

美濃市未来創造課が「体験型防災フェスタ in 武義高」を開催

第31回美濃和紙あかりアート展を開催

「市制施行70周年記念式典」を開催(写真⑧)

「美濃市五感遺産」認定(写真⑨)

「清流の国ぎふ」文化祭2024・美濃市民文化祭を市内各地で開催

台湾・高雄市政府客家事務委員会美濃市訪問団が来訪(写真⑩)

11月

美濃市総合フェアを開催

「清流の国ぎふ」文化祭2024・美濃市民文化祭ファイナルコンサート「第九大合唱」を開催(写真⑪)

うだつの上がるいっぴん市(シテップromoーション in 東京)を開催

12月

ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念事業「紙すき実演 in 二条城」(京都市)を開催(写真⑫)

美濃和紙議會を開催



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫